

キャリアプログラム科 シラバス

| | | | | |
|---|--|---|-------|------------|
| 科目名 | 音楽理論(LM1) | | 担当教員名 | 小林 延江 |
| 単位時間 | 30 | 必修・選択 | 配当年次 | (1)年次 (前)期 |
| 曜日・時限 | | 必修 | 教室 | |
| 授業の到達目標 | 楽譜に書かれた音やリズム・記号の意味について理解し、楽譜の基礎を学んでいくことで正確に楽譜を読み取る力を身につけていくことを目標とする。 | | | |
| 授業の内容 | ※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する教科書、補助プリント、楽譜と音源を使い、実際に楽譜の中でどのように書かれ、使われているのかも紹介しながら講義し、ワークブックを用いて繰り返し問題を解きながら読譜力をつけていきます。 | | | |
| 【実務経験】2009年より大阪スクールオブミュージック専門学校で勤務。その他、宝塚エジュケーションクラブ、第一楽器(株)等の音楽教室でピアノ講師として後進の指導にもあたっている。 | | | | |
| 回数 | 授業形態 | 内容 | | |
| 1 | 講義 | ファンデーションカリキュラムの説明・LMの説明・楽譜を時代ごとに追っていき、古代から現代への楽譜の移り変わりを知る | | |
| 2 | 講義 | 鍵盤と音名の一致・楽器ごとの音域を知る | | |
| 3 | 講義 | 音符・休符の表し方、連符 | | |
| 4 | 講義 | 拍子記号・小節線について、拍子(単純拍子は詳しく、複合・混合拍子は紹介のみ)、タイ・シンコペーション | | |
| 5 | 講義 | 反復記号を学び、音源を使用して楽譜を追えるようにする | | |
| 6 | 講義 | 楽譜と音源を使用し、前半の総復習 | | |
| 7 | 講義 | 前回までの確認テストと振り返り | | |
| 8 | 講義 | メジャースケールの仕組み・#系のメジャースケールのみ | | |
| 9 | 講義 | 5度圏を用い、調号を用いてスケールを書けるようにする・b系のメジャースケール | | |
| 10 | 講義 | 調号と臨時記号の違い・臨時記号の効力・正しい楽譜の書き方 | | |
| 11 | 講義 | 速度記号、速度標語、強弱記号を学ぶ | | |
| 12 | 講義 | 楽譜と音源を使用し、後半の総復習 | | |
| 13 | 講義 | 期末テスト前復習週、前回までの振り返り | | |
| 14 | 講義 | 期末確認テストと振り返り | | |
| 15 | 講義 | 講義内容のまとめと実践的なワークブック | | |
| 準備学習 時間外学習 | 教科書を読み使う用語の確認と譜面の確認 | | | |
| 成績評価 | 1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%) | 出席回数、授業態度、筆記試験の総合評価 | | |
| 教材 | 教科書 | ゼロから始める音楽理論、ワークブック | | |
| | 参考書 | | | |
| 学生への メッセージ | 楽譜は慣れです！楽譜に触れる機会をたくさん増やし、楽譜に書かれていることを正確に読み取れる力を身につけていけるよう日々の授業をコツコツ取り組んでいきましょう。 | | | |

キャリアプログラム科 シラバス

| | | | | |
|---|--|---|-------|------------|
| 科目名 | 音楽理論(LM2) | | 担当教員名 | 小林 延江 |
| 単位時間 | 30 | 必修・選択 | 配当年次 | (1)年次 (後)期 |
| 曜日・時限 | | 必修 | 教室 | |
| 授業の到達目標 | スケールの仕組みや曲の雰囲気の特徴付けるKeyについて、移調の仕方、楽譜に書かれた記号の演奏方法について、コードの概念と構造について理解することにより、楽譜をもう少し深いところまで読み取る力を身につけていくことを目標とする。 | | | |
| 授業の内容 | ※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する教科書、補助プリント、楽譜と音源を使い、実際に楽譜の中でどのように書かれ、使われているか、どう使っていくか等紹介しながら講義し、ワークブックを用いて繰り返し練習していきながら習得していく。 | | | |
| 【実務経験】2009年より大阪スクールオブミュージック専門学校で勤務。その他、宝塚エジュケーションクラブ、第一楽器(株)等の音楽教室でピアノ講師として後進の指導にもあたっている。 | | | | |
| 回数 | 授業形態 | 内容 | | |
| 1 | 講義 | マイナースケールの仕組み・5度圏を用いてナチュラルマイナーの説明 | | |
| 2 | 講義 | ハーモニックマイナー、メロディックマイナーの説明 | | |
| 3 | 講義 | 近親調・それぞれの調の関係を楽譜を用いて知る | | |
| 4 | 講義 | 五線を用いて移調を出来るようになる | | |
| 5 | 講義 | 省略記号、奏法記号、装飾記号を知る | | |
| 6 | 講義 | 楽譜と音源を用い、前半の総復習 | | |
| 7 | 講義 | 前回までの確認テストと振り返り | | |
| 8 | 講義 | コードの概念とトライアドの構造について知る | | |
| 9 | 講義 | トライアドの知識を踏まえ、7thコードに発展させる | | |
| 10 | 講義 | トライアドと7thコードの響きの違いを曲を用いて知る・dimコードの構造と響き | | |
| 11 | 講義 | add9、sus4、6thコードについて知る | | |
| 12 | 講義 | 楽譜と音源を用い、後半の総復習 | | |
| 13 | 講義 | 期末テスト前復習週、前回までの振り返り | | |
| 14 | 講義 | 期末確認テストと振り返り | | |
| 15 | 講義 | 講義内容のまとめと実践的なワークブック | | |
| 準備学習 時間外学習 | 教科書を読み使う用語の確認と譜面の確認 | | | |
| 成績評価 | 1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%) | 出席回数、授業態度、筆記試験の総合評価 | | |
| 教材 | 教科書 | ゼロから始める音楽理論、ワークブック | | |
| | 参考書 | | | |
| 学生への メッセージ | 楽譜は慣れです！楽譜に触れる機会をたくさん増やし、楽譜に書かれていることを正確に読み取れる力を身につけていけるよう日々の授業をコツコツ取り組んでいきましょう。 | | | |

キャリアプログラム科 シラバス

| | | | |
|---------------|--|---------------------------------------|-----------|
| 科目名 | 音楽史(インストアンサンブル) | 担当教員名 | 岡本陽一 |
| 単位数 | 60 | 必修・選択 | 配当年次 |
| | | | 1年次 前期・後期 |
| | | 教室 | EN632 |
| 授業の到達目標 | <p>(1)課題曲を題材にして基本的なアンサンブル技術を養う。 (2)コード進行に沿ったスケールを考えベースのフレーズを構築させる。 (3)楽曲のアレンジを編曲しオリジナルな演奏を心がける。</p> | | |
| 授業の内容 | <p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する 2週ごとに課題曲を入れ替え、様々な音楽ジャンルに対応できる演奏技術を養う。ギター、ベース、ドラムとそれぞれにソロパートを割り振り、コード進行に適したオリジナルなフレーズを演奏する。 学期末にはレコーディングスタジオを利用して各パートのレコーディングを予定。曲の構成やソロパート</p> | | |
| 【実務経験】 | <p>大阪スクールオブミュージック専門学校卒業後、LosAngels Music Academyへ入学。2年間のプログラムを履修し卒業。2002年帰国後はOSMプロミュージシャン科ベースコースの講師に就任。そ</p> | | |
| 回数 | 授業形態 | 内容 | |
| 1 | 演習 | ベースの基本フォームの確認。基礎演奏レベルチェック | |
| 2 | 演習 | 8ビートリズムの演奏: 課題曲「Why I sing the Blues」 | |
| 3 | 演習 | 8ビートリズムの演奏: 課題曲「Why I sing the Blues」 | |
| 4 | 演習 | 8ビートリズムの演奏(2): 課題曲「Got to Be Real」 | |
| 5 | 演習 | 8ビートリズムの演奏(2): 課題曲「Got to Be Real」 | |
| 6 | 演習 | 16Beatのフレーズについて: 課題曲「Stratus」 | |
| 7 | 演習 | 16Beatのフレーズについて: 課題曲「Stratus」 | |
| 8 | 演習 | シャッフル系リズムの演奏: 課題曲「Freeway Jam」 | |
| 9 | 演習 | シャッフル系リズムの演奏: 課題曲「Freeway Jam」 | |
| 10 | 演習 | シャッフル系リズムの演奏: 課題曲「Cissy Strut」 | |
| 11 | 演習 | シャッフル系リズムの演奏: 課題曲「Cissy Strut」 | |
| 12 | 演習 | レコーディング演習(1) | |
| 13 | 演習 | レコーディング演習(2) | |
| 14 | 演習 | (ワークショップ) | |
| 15 | 演習 | (ワークショップ) | |
| 準備学習 時間外学習 | 課題曲の予習復習、キーとスケールの確認 | | |
| 成績評価 | 1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%) | 1. 90% 2. 0% 3. 10% | |
| 教材 | 教科書 | | |
| | 参考書 | 課題曲の譜面を配布 LAMusicAcademyの教材から資料を抜粋 | |
| 学生への メッセージ | <p>楽曲の決まったフレーズやリズムを演奏する技術もちろん大切な事だが、 シンプルなコード進行の中でも、自分のテクニックやアイデアだけで 楽曲のダイナミクスを広げる事。 楽器を演奏する本当の実力とはそこにあると思います。 その為には、音楽の歴史を振り返り、理論の勉強やフレーズの練習、 スケールの練習を頑張りましょう！</p> | | |

キャリアプログラム科 シラバス

| | | | | |
|---------------|---|--------------------------------------|-------|----------|
| 科目名 | プロダクション実務(TACプロジェクトB) | | 担当教員名 | 堤福男・松下俊樹 |
| 時間数 | 30 | 必修・選択 | 配当年次 | 1年次 前期 |
| 曜日・時限 | | 選択 | 教室 | 707 |
| 授業の到達目標 | 産学連携で企業様とイベントなどに取り組み、コミュニケーション能力や、外部の人との関係性を構築させることで、学生の目標である音楽業界への就職に一人でも多く繋げることを目標とする。 | | | |
| 授業の内容 | ※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する 【1コマ目】産学連携でお世話になっているメディアプルポさんのイレギュラーで入ってくるテレビ番組収録や公開ライブの現場に参加するための講義。【2コマ目】後期の目標であるイベント企画(7月29日)の課題に取り組みます。 【実務経験】マネージャー業をはじめ、イベントのプロモーション、メディア制作等にも携わる。現在はそれらの業務に加え、後進の育成にもあたる。 | | | |
| 回数 | 授業形態 | 内容 | | |
| 1 | 演習 | TACプロジェクトの産学連携の授業内容に関して | | |
| 2 | 演習 | スケジュール管理や報告のまとめ方についての説明、レクチャー | | |
| 3 | 演習 | イベントの企画(7月29日)立案のレクチャー | | |
| 4 | 演習 | イベントに出演するアーティストを選定するためのオーディションをレクチャー | | |
| 5 | 演習 | イベントプロモーションやSNSの活用法を学ぶためのレクチャー | | |
| 6 | 演習 | フライヤーの制作、デザインのためのレクチャー | | |
| 7 | 演習 | 制作したフライヤーなど、販促物の配布を行う宣伝活動を実施 | | |
| 8 | 演習 | イベントに必要な資料(タイムテーブル、セット図など)の作成をレクチャー | | |
| 9 | 演習 | 樋口宗孝がん研究基金代表(柳澤様)特別講義 | | |
| 10 | 演習 | マネジメントについての知識を学ぶためのレクチャー | | |
| 11 | 演習 | 7月29日のイベントの準備を実施 | | |
| 12 | 演習 | 後期のイベントの企画(10月25日)立案のレクチャー | | |
| 13 | 演習 | 9月6日のテレビ収録現場の準備やレクチャー | | |
| 14 | 演習 | イベントに出演するアーティストを選定するためのオーディションを実施 | | |
| 15 | 演習 | イベント(10月25日)のプロモーションの実施 | | |
| 準備学習 時間外学習 | イレギュラーで入ってくるテレビ収録やイベント現場対応、ならびに企業様への対応に向けた準備を日々おこなっていく | | | |
| 成績評価 | 1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%) | 1.実技100% | | |
| 教材 | 教科書 | 適時、必要資料を配布します。 | | |
| | 参考書 | 適時、必要資料を配布します。 | | |
| 学生への メッセージ | 学外の企業様や実際に現場で活躍されている方々とコミュニケーションを取る場を設けますので、関係性を自分自身でも構築していきましょう。皆さんの将来のために繋がる学びの場としますので、前向きに取り組んでいきましょう。 | | | |

キャリアプログラム科 シラバス

| | | | | |
|---------------|--|-------------------------------------|-------|----------|
| 科目名 | プロダクション実務(TACプロジェクトB) | | 担当教員名 | 堤福男・松下俊樹 |
| 時間数 | 30 | 必修・選択 | 配当年次 | 1年次 後期 |
| 曜日・時限 | | 選択 | 教室 | 707 |
| 授業の到達目標 | 産学連携で企業様とイベントなどに取り組み、コミュニケーション能力や、外部の人との関係性を構築させることで、学生の目標である音楽業界への就職に一人でも多く繋げることを目標とする。 | | | |
| 授業の内容 | ※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する 【1コマ目】産学連携でお世話になっているメディアプルポさんのイレギュラーで入ってくるテレビ番組収録や公開ライブの現場に参加するための講義.及び各イベント企画 【2コマ目】後期の目標であるイベント企画.及びマネジメントの課題に取り組みます。 | | | |
| | 【実務経験】マネージャー業をはじめ、イベントのプロモーション、メディア制作等にも携わる。現在はそれらの業務に加え、後進の育成にもあたる。 | | | |
| 回数 | 授業形態 | 内容 | | |
| 1 | 演習 | 制作したフライヤーなど、販促物の配布を行う宣伝活動を実施 | | |
| 2 | 演習 | イベントに必要な資料(タイムテーブル、セット図など)の作成をレクチャー | | |
| 3 | 演習 | 10月25日のイベントの準備を実施 | | |
| 4 | 演習 | 10月25日のイベントの運営 | | |
| 5 | 演習 | 10月25日のイベントの振り返り・総括 | | |
| 6 | 演習 | 10月25日のイベントに関する学生によるプレゼンテーション | | |
| 7 | 演習 | テレビ収録現場の準備やレクチャー | | |
| 8 | 演習 | テレビ収録現場でのワークショップ | | |
| 9 | 演習 | テレビ収録現場に関する振り返り | | |
| 10 | 演習 | マネジメントについての知識を学ぶためのレクチャー | | |
| 11 | 演習 | 事務所所属アーティストのマネジメント実践(レコーディング) | | |
| 12 | 演習 | 事務所所属アーティストのマネジメント実践(ライブ準備・制作) | | |
| 13 | 演習 | 事務所所属アーティストのマネジメント実践(ライブ運営) | | |
| 14 | 演習 | 各マネジメントチームによる報告会 | | |
| 15 | 演習 | 総括 | | |
| 準備学習 時間外学習 | イレギュラーで入ってくるテレビ収録やイベント現場対応、ならびに企業様への対応に向けた準備を日々おこなっていく | | | |
| 成績評価 | 1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%) | 1.実技100% | | |
| 教材 | 教科書 | 適時、必要資料を配布します。 | | |
| | 参考書 | 適時、必要資料を配布します。 | | |
| 学生への メッセージ | 学外の企業様や実際に現場で活躍されている方々とコミュニケーションを取る場を設けますので、関係性を自分自身でも構築していきましょう。また構築した関係を活かし、主体的に授業に取り組んでください。皆さんの将来のために繋がる学びの場としますので、前向きに取り組んでいきましょう。また、1年間の集大成にもなりますので今まで学んだことを存分に発揮してください。 | | | |

キャリアプログラム科 シラバス

| | | | |
|---------------|---|---|--------|
| 科目名 | 初見視奏(唱)イヤートレーニング3 | 担当教員名 | 小林 延江 |
| 単位時間 | 30 | 必修・選択 | 配当年次 |
| 曜日・時限 | | 教室 | 1年次 前期 |
| 授業の到達目標 | <p>《リズム》4/4拍子,3/4拍子(タイ付きリズム)ではC,G,Fの音で4分音符、8分音符、16分音符、4分休符、8分休符、16分休符、付点4分音符、付点8分音符、3連符の混ざったリズムを、6/8拍子では8分音符、16分音符、8分休符、付点4分音符、付点8分音符の混ざったリズムを聴き取れるように。</p> <p>《メロディー》Key:C、Key:F、Key:Cm、Key:Am《2声メロディー》Key:Cのメロディーを正確に聴き取り楽譜に書き表せるように。 《2声ハーモニー》1,3,4,5,6,8度音程のハーモニーを正確に聴き取れるように。</p> | | |
| 授業の内容 | <p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する</p> <p>キーボードで弾く音を聴き取り、リズムを感じ、それを表現するトレーニングを行っていく授業です。音感・リズム感・感性を鍛えていくと共に、音を集中して聴く力(集中力)、聴こえてきた音を正確に楽譜に表す力を身につけていきます。ET1・2で学び身につけた音感を実践に繋げていけるよう要所要所に復習を入れ反復練習を行いながら授業を進めていきます。</p> <p>【実務経験】2009年より大阪スクールオブミュージック専門学校で勤務。その他、宝塚エジュケーションクラブ、第一楽器(株)等の音楽教室でピアノ講師として後進の指導にもあたっている。</p> | | |
| 回数 | 授業形態 | 内容 | |
| 1 | 講義 | 聴き取り…4/4,3/4拍子/リズム打ち…6/8拍子/復習(1オクターブ) Key:C/2声メロディー | |
| 2 | 講義 | 復習/リズム打ち…6/8拍子/復習(1オクターブ+低いB)/key:Cmでの聴き取り/2声ハーモニーの導入・3度音程のハーモニー練習/コードKey:C I-IV-Vの聴き取り(Hey Jude) | |
| 3 | 講義 | 4/4拍子,3/4拍子…復習(タイ付き)/6/8拍子…既習リズムで書き取り/復習 Key:Cmでの聴き取り/2声ハーモニー・3度の音程/コードKey:C I-IV-Vの聴き取り(贈る言葉) | |
| 4 | 講義 | 4/4拍子,3/4拍子,6/8拍子/復習(1オクターブ+低いA)/Key:Amでの聴き取り/2声メロディー(ベースラインの書き取り)/2声ハーモニー/トライトーンのハーモニー練習/コードKey:C I-IV-Vの聴き取り(さ) | |
| 5 | 講義 | 4/4拍子,3/4拍子…復習(タイ付き)/6/8拍子/Key:Amでの聴き取り/2声メロディー(ベースラインの書き取り)/2声ハーモニー復習/コードKey:C I-IV-Vの聴き取り | |
| 6 | 講義 | リズム・メロディー復習/2声メロディー(2声の書き取り) Key:C/2声ハーモニー 復習/コードKey:C I-IV-Vの聴き取り | |
| 7 | 講義 | 前回までの確認テスト・振り返り | |
| 8 | 講義 | テスト返却/リズム4/4拍子,3/4拍子,6/8拍子復習/メロディーKey:Fmajorの導入/2声メロディー・2声ハーモニー復習/コードKey:C 復習とIV(II)-V-Iの聴き分け | |
| 9 | 講義 | タイ付きリズム導入/メロディーKey:Fmajor/2声メロディー復習/6度音程のハーモニー練習/コード IV(II)-V-I | |
| 10 | 講義 | タイ付きリズム/メロディー復習 Key:Fmajor/2声メロディー・2声ハーモニー復習 | |
| 11 | 講義 | リズム4/4拍子,3/4拍子の付点8分音符+8分音符リズムの導入/メロディーKey:Fmajor/2声メロディー復習/オクターブとユニゾンのハーモニー練習/IV(II)-V-I | |
| 12 | 講義 | リズム4/4拍子,3/4拍子の付点8分音符+8分音符リズムの導入/ロディーKey:Fmajor/2声メロディー復習/オクターブとユニゾンのハーモニー練習/IV(II)-V-I | |
| 13 | 講義 | 期末テスト前復習週、前回までの振り返り | |
| 14 | 講義 | 期末確認テストと振り返り | |
| 15 | 講義 | 講義内容のまとめと実践的なワークジョック | |
| 準備学習 時間外学習 | 教科書を読み使う用語の確認と譜面の確認 | | |
| 成績評価 | 1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%) | 出席回数、授業態度、筆記試験の総合評価 | |
| 教材 | 教科書 | イヤートレーニング | |
| | 参考書 | | |
| 学生への メッセージ | 週1回の授業を大切に！こつこつと積み重ねていくことで少しずつ耳は鍛えられていきます。身につけた音感+α実践で役立てていける耳コピ力を身につけていけるよう、レベルアップ目指して頑張りましょう。 | | |

キャリアプログラム科 シラバス

| | | | | |
|---------------|--|--|-------|--------|
| 科目名 | 初見視奏(唱)イヤートレーニング4 | | 担当教員名 | 小林 延江 |
| 単位時間 | 30 | 必修・選択 | 配当年次 | 1年次 後期 |
| 曜日・時限 | | | 教室 | |
| 授業の到達目標 | <p>《リズム》4/4拍子,3/4拍子(タイ付きリズム)ではC,G,Fの音で4分音符,8分音符,16分音符,4分休符,8分休符,16分休符,付点8分音符,付点4分音符,付点8分音符,3連符の混ざったリズムを,6/8拍子では4分音符,8分音符,16分音符,8分休符,付点4分音符,付点8分音符の混ざったリズムを聴き取れるように。《メロディー》Key:C, Key:F, Key:Cm, Key:Am, Key:G(2声メロディー)Key:C(6/8拍子メロディー)Key:Cのメロディーを正確に聴き取り楽譜に書き表せるように。</p> | | | |
| 授業の内容 | <p>※実務経験のある教員, 知見を有する教員が, どのような授業を実施するのか, 具体的に記載する キーボードで弾く音を聴き取り, リズムを感じ, それを表現するトレーニングを行っていく授業です。音感・リズム感・感性を鍛えていくと共に, 音を集中して聴く力(集中力), 聴こえてきた音を正確に楽譜に表す力を身につけていきます。ET1・2で学び身につけた音感を実践に繋げていけるよう要所要所に復習を入れ反復練習を行いながら授業を進めていきます。</p> | | | |
| 【実務経験】 | 2009年より大阪スクールオブミュージック専門学校で勤務。その他, 宝塚エジュケーションクラブ, 第一楽器(株)等の音楽教室でピアノ講師として後進の指導にもあたっている。 | | | |
| 回数 | 授業形態 | 内容 | | |
| 1 | 講義 | リズム4/4,3/4,6/8拍子 復習/Key:Gの聴き取り導入(F# ⁺ ~D ⁺)/6/8拍子メロディー導入 視唱のみ/2声メロディー3連符導入/2声ハーモニー 復習 2度音程導入 | | |
| 2 | 講義 | リズム4/4,3/4拍子シンコペーションリズムの導入/Key:Gmajorの聴き取り(F# ⁺ ~D ⁺)★跳躍進行練習/6/8拍子メロディー聴き取りKey:C/2声メロディー・2声ハーモニー 復習/コード IV(II)-V-Iの聞き分け | | |
| 3 | 講義 | リズム4/4,3/4拍子 復習/Key:Gの聴き取り(F# ⁺ ~D ⁺)/6/8拍子メロディー聴き取りKey:C/2声メロディー/2声ハーモニー 復習/コード IV(II)-V-Iの聞き分け | | |
| 4 | 講義 | 4/4,3/4拍子 16分音符+8分音符リズムの導入/Key:Gの聴き取り(F# ⁺ ~D ⁺)/6/8拍子メロディー聴き取り 復習/2声メロディー/2声ハーモニー 復習/コード VIの和音も含む聞き分け | | |
| 5 | 講義 | リズム4/4,3/4拍子 復習/Key:Gの聴き取り(F# ⁺ ~D ⁺)…音域広げる/6/8拍子メロディー聴き取り/2声メロディー・2声ハーモニー 復習/コード IV(II)-V-I, VIの聞き分け | | |
| 6 | 講義 | 中間確認テスト前復習・前回までの振り返り | | |
| 7 | 講義 | 中間確認テストと振り返り | | |
| 8 | 講義 | リズム4/4,3/4付点8分休符+16分音符リズムの導入/Key:C, G, Amの聴き取り/6/8拍子メロディー聴き取り/2声メロディー 復習/2声ハーモニー 跳躍進行を含むハーモニー/コード II-V-Iの聞き分け | | |
| 9 | 講義 | 2/4,3/4拍子…タイ付きリズム/Key:C・Cmの聴き取り/6/8拍子メロディー聴き取り/2声メロディー・2声ハーモニー 復習/コード II-V-Iの聞き分け | | |
| 10 | 講義 | 4/4,3/4拍子…Key:C・F・DのI,IV,Vの音での聴き取り(タイなし・タイ付き)/Key:F・Key:Amの聴き取り/6/8拍子メロディー聴き取り/2声メロディー・2声ハーモニー 復習/コード V-Iの聞き分け | | |
| 11 | 講義 | 4/4,3/4拍子…Key:C・F・DのI,IV,Vの音での聴き取り(タイ付き)/Key:G・Fの聴き取り/6/8拍子メロディー聴き取り/2声メロディー・2声ハーモニー 復習/コード IV(II)-V-I, VIの聞き分け | | |
| 12 | 講義 | リズム4/4拍子 復習/Key:G・Amの聴き取り/6/8拍子メロディー聴き取り 復習/2声メロディー・2声ハーモニー 復習/コード I, II, IV, V, VIの聞き分け | | |
| 13 | 講義 | 期末テスト前復習週, 前回までの振り返り | | |
| 14 | 講義 | 期末確認テストと振り返り | | |
| 15 | 講義 | 講義内容のまとめと実践的なワークジョック | | |
| 準備学習 時間外学習 | 教科書を読み使う用語の確認と譜面の確認 | | | |
| 成績評価 | 1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%) | 出席回数, 授業態度, 筆記試験の総合評価 | | |
| 教材 | 教科書 | イヤートレーニング | | |
| | 参考書 | | | |
| 学生への メッセージ | 週1回の授業を大切に! こつこつと積み重ねていくことで少しずつ耳は鍛えられていきます。身につけた音感+α実践で役立てていける耳コピ力を身につけていけるよう, レベルアップ目指して頑張りましょう。 | | | |

キャリアプログラム科 シラバス

| | | | | |
|---|---|---|-------|-----------|
| 科目名 | ヴォイストレーニング(ヴォイストレーニング)) | | 担当教員名 | 桜田ヒロキ |
| 単位数 | 60 | 必修・選択 | 配当年次 | 1年次 前期・後期 |
| 曜日・時限 | | 選択 I | 教室 | EN531 |
| 授業の到達目標 | ・声の発せられるメカニズムの理解 ・自分の行うべき改善目標の具体化 ・具体化された目標を実際に到達させるためのトレーニングの日常化(トレーニング・メニューは別途お送) | | | |
| 授業の内容 | ※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する ハリウッド式ボイストレーニング(VocalizeUで使われる発声理論)を用いて音域の拡大・音色の改善・声量の増強を行う | | | |
| 【実務経験】マイケル・ジャクソン、スティービー・ワンダーのコーチSeth Riggsのトレーニングメソッドの日本人2人目の公認インストラクター。アーティスト担当、ライブ帯同多数。 | | | | |
| 回数 | 授業形態 | 内容 | | |
| 1 | 演習 | セミナー形式でそれぞれの悩みを聞き、実際に解決。前期に行うメニューのオーバー・ビューを見せる | | |
| 2 | 演習 | トレーニング・メニュー、声の弱点タイプの理解(別紙参照) | | |
| 3 | 演習 | トレーニング・メニュー(別紙参照)、エクササイズの割り当て | | |
| 4 | 演習 | トレーニング・メニュー(別紙参照)、生理学的な声帯の動きを理解する | | |
| 5 | 演習 | トレーニング・メニュー(別紙参照)、エクササイズの割り当て | | |
| 6 | 演習 | トレーニング・メニュー(別紙参照)、ビブラートに対する理解・エクササイズ | | |
| 7 | 演習 | トレーニング・メニュー(別紙参照)、エクササイズの割り当て | | |
| 8 | 演習 | トレーニング・メニュー(別紙参照)、ボイストレーニングにおける母音の考え方 | | |
| 9 | 演習 | トレーニング・メニュー(別紙参照)、エクササイズの割り当て | | |
| 10 | 演習 | トレーニング・メニュー(別紙参照)、音階練習・音程の考え方 | | |
| 11 | 演習 | トレーニング・メニュー(別紙参照)、エクササイズの割り当て | | |
| 12 | 演習 | トレーニング・メニュー(別紙参照)、トレーニングにおける音程音階を理解した上で適切な練習曲の選び方を理解する | | |
| 13 | 演習 | トレーニング・メニュー(別紙参照)、エクササイズの割り当て | | |
| 14 | 演習 | トレーニング・メニュー(別紙参照)、semi-occludedエクササイズの音声学的な解説(リップパブル・ストローエクササイズなど) | | |
| 15 | 演習 | トレーニング・メニュー(別紙参照)、エクササイズの割り当て | | |
| 準備学習 時間外学習 | 個人練習と前回の復習 | | | |
| 成績評価 | 1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%) | 出席率を評価得点とし、優秀者には追加点 | | |
| 教材 | 教科書 | | | |
| | 参考書 | Singing for the stars (Seth Riggs), Vocology (Ingo Titze), Singing Success (Brett Manning), Ultimate Voice Training for singers (Billy Purnell) | | |
| 学生への メッセージ | 発声法を学ぶだけでなく、音声学や生理学の観点からも声について学習し、自分で声をトレーニングできるようになる事を目指しましょう。理論までしっかり固めておけば、卒業後にトレーナーとして働く事も出来ますよ！ | | | |

キャリアプログラム科 シラバス

| | | | | |
|--|---|---|-------|--------|
| 科目名 | コンピューターミュージック(メロディーメイク) | | 担当教員名 | 小林 哲 |
| 単位時間 | 30 | 必修・選択 | 配当年次 | 1年次 前期 |
| 曜日・時限 | | 選択 | 教室 | 605 |
| 授業の到達目標 | Cubase の基本操作を理解し、歌モノ、インスト曲問わず、様々なタイプのメロディーを作成、プログラミング出来るようになる。 自由のメロディーに対するコード付けを出来るようになる。 | | | |
| 授業の内容 | ※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する | | | |
| メロディーとは何か？基本的な考え方、作成術を学んだ上で、週毎の課題に沿ったメロディーの作成を Cubase を用いて行う。基礎的なコードワークも併せて学ぶ。 【実務経験】作編曲家。1998年のデビュー以降、ZARDをはじめビーイング系アーティストの編曲を数多く手がける。1999年より母校でもある大阪スクールオブミュージック専門学校にて作、編曲の講師を務め現在に至る。Steinberg 認定講師。 | | | | |
| 回数 | 授業形態 | 内容 | | |
| 1 | 演習 | この授業で最低限必要になる、Cubase の基本操作の習得 | | |
| 2 | 演習 | 全音符、2分音符をメインに使用したメロディーメイク／主要3和音の使い方。 | | |
| 3 | 演習 | 4分、8分音符をメインに使用したメロディーメイク／主要3和音+代理和音の使い方。 | | |
| 4 | 演習 | 8分、16分音符をメインに使用したメロディーメイク 1／Minor Key コードワーク | | |
| 5 | 演習 | 8分、16分音符をメインに使用したメロディーメイク 2／Secondary Dominant 追加 1 | | |
| 6 | 演習 | 個別データチェック／アドバイスを踏まえたデータ修正 | | |
| 7 | 演習 | シンコペーションを用いたメロディーメイク／Secondary Dominant 追加 2 | | |
| 8 | 演習 | 3拍子系のメロディーメイク／Secondary Dominant 追加 3 | | |
| 9 | 演習 | 16シャッフルのメロディーメイク／Dominant Chord バリエーション 1 | | |
| 10 | 演習 | 8シャッフルのメロディーメイク／Dominant Chord バリエーション 2 | | |
| 11 | 演習 | 個別データチェック／アドバイスを踏まえたデータ修正 | | |
| 12 | 演習 | SDmを使った進行に対してのメロディーメイク／SDmを使った進行 | | |
| 13 | 演習 | バラード メロディーメイク 1 (Major Key 1) | | |
| 14 | 演習 | ワークショップ | | |
| 15 | 演習 | ワークショップ | | |
| 準備学習 時間外学習 | 様々なジャンルの楽曲を、好き嫌いなくメロディーに注目して聴く。 Cubase の基本操作を身体が覚えるまで何度も復習する。 | | | |
| 成績評価 | 1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%) 3. 課題 (%) | 3、課題 100% | | |
| 教材 | 教科書 | なし | | |
| | 参考書 | なし | | |
| 学生への メッセージ | 音楽制作の核となる、メロディーについて学ぶ科目になります。 様々なタイプのメロディーメイクにチャレンジして、自身のオリジナル曲に活かして 行きましょう。 | | | |

キャリアプログラム科 シラバス

| | | | | |
|---------------|--|-------------------------|-------|--------|
| 科目名 | コンピューターミュージック(メロディメイク) | | 担当教員名 | 小林 哲 |
| 単位時間 | 30 | 必修・選択 | 配当年次 | 1年次 後期 |
| 曜日・時限 | | 選択 | 教室 | 605 |
| 授業の到達目標 | Cubase の基本操作を理解し、歌モノ、インスト曲問わず、様々なタイプのメロディーを作成、プログラミング出来るようになる。 自曲のメロディーに対するコード付けを出来るようになる。 | | | |
| 授業の内容 | ※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する メロディーとは何か？基本的な考え方、作成術を学んだ上で、週毎の課題に沿ったメロディーの作成を Cubase を用いて行う。基礎的なコードワークも併せて学ぶ。 【実務経験】作編曲家。1998年のデビュー以降、ZARDをはじめビーイング系アーティストの編曲を数多く手がける。1999年より母校でもある大阪スクールオブミュージック専門学校にて作、編曲の講師を務め現在に至る。Steinberg 認定講師。 | | | |
| 回数 | 授業形態 | 内容 | | |
| 1 | 演習 | 内容に沿った8～16小節のメロディー作成 | | |
| 2 | 演習 | 内容に沿った8～16小節のメロディー作成 | | |
| 3 | 演習 | アドバイスを踏まえたデータ修正 | | |
| 4 | 演習 | 内容に沿った8～18小節のメロディー作成 | | |
| 5 | 演習 | フルコーラス楽曲完成に向けて授業内容分制作進行 | | |
| 6 | 演習 | フルコーラス楽曲完成に向けて授業内容分制作進行 | | |
| 7 | 演習 | フルコーラス楽曲完成に向けて授業内容分制作進行 | | |
| 8 | 演習 | アドバイスを踏まえたデータ修正 | | |
| 9 | 演習 | フルコーラス楽曲完成に向けて授業内容分制作進行 | | |
| 10 | 演習 | フルコーラス楽曲完成に向けて授業内容分制作進行 | | |
| 11 | 演習 | フルコーラス楽曲完成に向けて授業内容分制作進行 | | |
| 12 | 演習 | フルコーラス楽曲完成に向けて授業内容分制作進行 | | |
| 13 | 演習 | アドバイスを踏まえたデータ修正 | | |
| 14 | 演習 | ワークショップ | | |
| 15 | 演習 | ワークショップ | | |
| 準備学習 時間外学習 | 様々なジャンルの楽曲を、好き嫌いなくメロディーに注目して聴く。 Cubase の基本操作を身体が覚えるまで何度も復習する。 | | | |
| 成績評価 | 1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%) | 3、課題 100% | | |
| 教材 | 教科書 | なし | | |
| | 参考書 | なし | | |
| 学生への メッセージ | 音楽制作の核となる、メロディーについて学ぶ科目になります。 様々なタイプのメロディーメイクにチャレンジして、自身のオリジナル曲に活かして行きましょう。 | | | |

キャリアプログラム科 シラバス

| | | |
|-----|------------------------|--------------------|
| | 担当教員名 | 渡辺敦子、森山公一 |
| 120 | 必修・選択 選択 配当年次 教室 | 1年次 前期・後期 EN232 |

ライヴパフォーマンスの向上。より良い楽曲作り。活動内容の拡大。

【実務経験】1973年大阪市生まれ。学生時代に結成したバンド「オセロケッツ」のソングライター/ボカリストとして1997年メジャーデビュー。現在までシングル10枚、

授業形態

| | | |
|----|----|-----------------------------------|
| 1 | 演習 | |
| 2 | 演習 | |
| 3 | 演習 | |
| 4 | 演習 | |
| 5 | 演習 | |
| 6 | 演習 | |
| 7 | 演習 | |
| 8 | 演習 | |
| 9 | 演習 | |
| 10 | 演習 | |
| 11 | 演習 | 各バンドへのアドバイス(楽曲制作・パフォーマンス・プランニング等) |
| | 演習 | |
| 13 | 演習 | 各バンドへのアドバイス(楽曲制作・パフォーマンス・プランニング等) |
| 14 | 演習 | (ワークショップ) |
| 15 | 演習 | (ワークショップ) |

準備学習 音楽はもちろん、映画・小説・絵画等
時間外学習 あらゆる芸術作品に触れて、感性を磨きましょう。

成績評価 1. 実技試験(%)
2. 筆記試験(%)
3. 課題(%) 授業内評価 実技試験 100%

教科書
教材 参考書

学生への
メッセージ 「好き」で始めた気持ちを忘れず、より良いバンドに成長できる様、頑張りましょう。

キャリアプログラム科 シラバス

| | | | | |
|---------------|--|---------------------------------------|-------|-----------|
| 科目名 | 番組企画制作(コミュニケーションベーシック) | | 担当教員名 | 北林 圭 |
| 時間数 | 120 | 必修・選択 | 配当年次 | 1年次 前期・後期 |
| 曜日・時限 | | 選択 | 教室 | 801 |
| 授業の到達目標 | <p>コースの垣根を越えて分け隔てなく繋がりを形成し、新たな環境に自分が置かれた時の対処法・コミュニケーション能力を培う。 前期終盤には後期へ向けて、自分自身の前期の振り返りと、後期の目標をクラス全員の前で発表できるようになる。</p> | | | |
| 授業の内容 | <p>産業カウンセラー4年、委託でOSMで3年間授業を担当。</p> <p>体感型ワークと自己を見つめる(自己受容)プリントワークを使用。 1対1での会話、1対多数での会話・主張を実践。人前で自分の考えや想いを伝える練習。 授業を通して、自分や周りのクラスメイトの新たな魅力を発見する。 ※学生の状況などで、予告なく授業内容を変更する場合がございます。</p> | | | |
| 【実務経験】 | 産業カウンセラー4年、委託でOSMで3年間授業を担当。 | | | |
| 回数 | 授業形態 | 内容 | | |
| 1 | 演習 | オリエンテーション/ファーストコミュニケーション実習・総当たりインタビュー | | |
| 2 | 演習 | 他者紹介・短時間でクラスメイトについて知る | | |
| 3 | 演習 | 傾聴 ・ 話の聞き方で印象の受け方・与え方を感じる (メラビアンの法則) | | |
| 4 | 演習 | 目標設定・短期から長期の目標を掲げ、何が必要かを認識する | | |
| 5 | 演習 | 捉え方 ・ 自分の事柄の考え方、捉え方の傾向を知る | | |
| 6 | 演習 | 捉え方 ・ 自分の事柄の考え方、捉え方の傾向を知る | | |
| 7 | 演習 | ミニプレゼンテーション 適切なフィードバック | | |
| 8 | 演習 | ミニプレゼンテーション 適切なフィードバック | | |
| 9 | 演習 | ミニプレゼンテーション 適切なフィードバック | | |
| 10 | 演習 | ミニプレゼンテーション 適切なフィードバック | | |
| 11 | 演習 | ミニプレゼンテーション 適切なフィードバック | | |
| 12 | 演習 | ミニプレゼンテーション 適切なフィードバック | | |
| 13 | 演習 | ミニプレゼンテーション 適切なフィードバック | | |
| 14 | 演習 | ミニプレゼンテーション 適切なフィードバック | | |
| 15 | 演習 | 後期の振り返りのプリント記入 | | |
| 準備学習 時間外学習 | プレゼンテーションの事前準備と原稿確認 | | | |
| 成績評価 | 1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%) 3. 課題 (%) | 1. 実技 80% 2. 筆記 10% 3. 課題 10% | | |
| 教材 | 教科書 | | | |
| | 参考書 | | | |
| 学生への メッセージ | 人間の悩みはほとんどが対人関係から生まれていると言われています。得意・不得意はあると思いますが、切っても切れない部分ですので、皆で楽しく学び、ご自身の目標達成に生かしていきましょう！ | | | |

キャリアプログラム科 シラバス

| | | | |
|---------------|---|----------------------------------|------------------------------|
| 科目名 | ステージライティング(LTベーシック) | 担当教員名 | ハートス |
| 時間数 | 120 | 必修・選択 | 配当年次 |
| 曜日・時限 | | 必修 | 教室 |
| 授業の到達目標 | 照明機材 調光卓の基本的な操作 オペレート技術の習得。 | | |
| 授業の内容 | ※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する 実務経験 15年以上の教員が 舞台照明の基本的知識を講義。 また 実地に基づき様々な機材を使用し照明実習を行う。 | | |
| 回数 | 授業形態 | 内容 | |
| 1 | 演習 | 照明の仕事について 授業内容説明 前期目標設定 機材説明 | |
| 2 | 演習 | 機材説明 操作方法 種類と仕組みについて | |
| 3 | 演習 | 機材説明 操作方法 種類と仕組みについて | |
| 4 | 演習 | 仕込みの基本説明 調光操作卓の基本説明 実習 | |
| 5 | 演習 | 仕込み図の説明 カラーフィルター取扱い 種類 仕込み図を読み解く | |
| 6 | 演習 | 調光操作卓の操作説明 照明機材による 表現方法 | |
| 7 | 演習 | シュート棒 脚立による シュート方法 実習 | |
| 8 | 演習 | PINSPOT 操作実習 | |
| 9 | 演習 | 現場での様々なトラブルを想定 対処方法実習 | |
| 10 | 演習 | 調光操作卓の操作説明 サブマスター エフェクト実習 | |
| 11 | 演習 | 調光操作卓の操作説明 Qシーン作成 自動演出 1 | |
| 12 | 演習 | 調光操作卓の操作説明 Qシーン作成 自動演出 2 | |
| 13 | 演習 | PINSPOT 操作実習 1 | |
| 14 | 演習 | PINSPOT 操作実習 2 | |
| 15 | 演習 | PINSPOT 操作実習 3 | |
| 準備学習 時間外学習 | 前回で行った操作を次の授業までに繰り返し行う | | |
| 成績評価 | 1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%) | 1.100% | 授業に対する取り組み・理解力確認・総合評価60点以上合格 |
| 教材 | 教科書 | | |
| | 参考書 | | |
| 学生への メッセージ | | | |

キャリアプログラム科 シラバス

| | | | | |
|---------------|--|--------------------------------|------|-----------|
| 科目名 | 音響(レコーディングセッション) | 担当教員名 | 吉川 豊 | |
| 時間数 | 150 | 必修・選択 | 配当年次 | 1年次 前期・後期 |
| 曜日・時限 | | 選択2 | 教室 | 301・403 |
| 授業の到達目標 | <p>現場での「動き」「考えかた」「コミュニケーション力」。 基本となるエンジニア技術を活かし、応用し、制作者&クライアントの求める作品を作り上げるスキル。 スタジオ業務に就いた際に重要とされる上記2点を到達目標とする。</p> | | | |
| 授業の内容 | <p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する 1年生で習得した基本となる技術を基に、よりプロのRECスタジオに近い実践授業を行う。 アレンジ上での楽器の使い方を理解し、どう聴かせるか？聴かせ方。立体的な音の作り方。 protocolsが使われるようになり、エンジニアはより音楽的要素が求められるようになった。それをスピーディーに表現するためのprotocolsの使い方。相手が何を求めているかを理解する力。実践を通じて上記をテーマに授業を進行。 【実務経験】 専門学校を卒業後、大手レコーディングスタジオ2社を経た後、制作事務所勤務。現在StudioMechに籍を置く。 31年間ジャンルを問わず様々なアーティストのレコーディングに参加。</p> | | | |
| 回数 | 授業形態 | 内容 | | |
| 1 | 演習 | 昨年度の復習・先輩達の動きを思い出して動いてみよう | | |
| 2 | 演習 | コミュニケーション力。望んでる音が何か？自分んの意見を伝える | | |
| 3 | 演習 | コミュニケーション力。望んでる音が何か？自分んの意見を伝える | | |
| 4 | 演習 | 音の分かる耳を作る。マイキングを工夫しよう | | |
| 5 | 演習 | 音の分かる耳を作る。マイキングを工夫しよう | | |
| 6 | 演習 | 聴かせるバランス・望んでるサウンドの聴かせ方 | | |
| 7 | 演習 | 聴かせるバランス・望んでるサウンドの聴かせ方 | | |
| 8 | 演習 | アプローチのしかた・自分の感じた音の表現・聴かせ方 | | |
| 9 | 演習 | アプローチのしかた・自分の感じた音の表現・聴かせ方 | | |
| 10 | 演習 | sound作り・アウトボードを使って個性を出す | | |
| 11 | 演習 | sound作り・アウトボードを使って個性を出す | | |
| 12 | 演習 | 制作・エンジニアとミュージシャンでレコーディング組み立てる | | |
| 13 | 演習 | 制作・エンジニアとミュージシャンでレコーディング組み立てる | | |
| 14 | 演習 | ワークショップ | | |
| 15 | 演習 | ワークショップ | | |
| 準備学習 時間外学習 | <p>常に空いてる時間はprotocolsを触る。 基本MIXは宿題にするので時間をかけやりたい事ができるように自主学習を。</p> | | | |
| 成績評価 | 1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%) | 1)実技試験(100%) | | |
| 教材 | 教科書 | <p>普段聴いてるCD SSL 取説</p> | | |
| | 参考書 | | | |
| 学生への メッセージ | <p>好きな事を仕事にするのには、難しい事を沢山覚えなければならない。 難しい事を遊び感覚で楽しんで、できるように工夫する事が使い方の難しい機材を覚えていく上でのコツ。 自分の好きなCDを靴に最低3枚は必ず入れて持ち歩いてください。 家で聞き慣れたCDをスタジオの良いモニター環境で空いてる時間は常に聴いてください</p> | | | |

キャリアプログラム科 シラバス

| | | | | |
|---------------|---|---|-------|------|
| 科目名 | PA実習(PAワークショップ) | | 担当教員名 | 上林 隆 |
| 時間数 | 120 | 必修・選択 | 配当年次 | 1年次 |
| 曜日・時限 | | 選択2 | 教室 | LS-1 |
| 授業の到達目標 | <p>リーダーシップを発揮し、計画性を持って、技術的、人間的に尊敬されるプロフェッショナルなサウンドエンジニアを目指す。</p> <p>そして周り(照明スタッフ、アーティストなど)に気配りをしながらもコミュニケーションをとれること。</p> <p>それから十分に安全面にお互い(全員)で注意して仕事をする事。</p> | | | |
| 授業の内容 | <p>2週～3週かけてLS-1の説明をしてからスタートします。</p> <p>アーティストをブッキングされた後にプランを考え、機材を決定した後、使用方法などをレクチャーします。</p> <p>コラボレーションなので朝の打ち合わせから仕込み～チューニング～SC～リハーサル～本番～撤去 というタイムスケジュールに沿って授業を進めます。チューニングの前後に照明チームのシュートが入ります。</p> <p>ただし、単純に本番まで行うのではなく、その週の議題を折り返し進めます。</p> <p>出席者が多数の場合は2週に1度はMIX卓を操作していただきたい。</p> | | | |
| 【実務経験】 | MSIにてコンサートオペレーターとして活躍。現在はフリーランスとして関西のイベント・コンサートを手掛ける。 | | | |
| 日程 | 授業形態 | 内容 | | |
| 1週目 | 演習 | LS-1 / コラボレーション授業について、仕込み～バラシetc 年間目標立て Vo.1 | | |
| 2週目 | 演習 | LS-1 / コラボレーション授業について、仕込み～バラシetc 年間目標立て Vo.2 | | |
| 3週目 | 演習 | メインシステム(Vertec)について レベル設定とチューニング (Profile) Vo.1 | | |
| 4週目 | 演習 | メインシステム(Vertec)について レベル設定とチューニング (Profile) Vo.2 | | |
| 5週目 | 演習 | モニターシステム、レベル設定とチューニング (M7, 5DH, PS15) Vo.1 | | |
| 6週目 | 演習 | モニターシステム、レベル設定とチューニング (M7, 5DH, PS15) Vo.2 | | |
| 7週目 | 演習 | スムーズなサウンドチェックとリハーサル Vo.1 | | |
| 8週目 | 演習 | スムーズなサウンドチェックとリハーサル Vo.2 | | |
| 9週目 | 演習 | スムーズなサウンドチェックとリハーサル Vo.3 | | |
| 10週目 | 演習 | マイクロフォン / 楽器や音楽ジャンルによるマイク選定とアレンジ Vo.1 | | |
| 11週目 | 演習 | マイクロフォン / 楽器や音楽ジャンルによるマイク選定とアレンジ Vo.2 | | |
| 12週目 | 演習 | マイクロフォン / 楽器や音楽ジャンルによるマイク選定とアレンジ Vo.3 | | |
| 13週目 | 演習 | デジタル / Vertec Lake Smaart の理解 Vo.1 | | |
| 14週目 | 演習 | デジタル / Vertec Lake Smaart の理解 Vo.2 | | |
| 15週目 | 演習 | 前期の総括 プランニングした事柄をタイムスケジュールに沿って行う | | |
| 準備学習 時間外学習 | | | | |
| 成績評価 | 1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%) 3. 課題 (%) | 試験による評価100% | | |
| 教材 | 教科書 | | | |
| | 参考書 | | | |
| 学生への メッセージ | 音響についての基礎からの授業です。とにかく出席してください！ そして機材を操作しましょう！全てはそこから始まります。 | | | |

キャリアプログラム科 シラバス

| | | | |
|---|--|---|------|
| 科目名 | 作曲編集(作曲技法) | 担当教員名 | 小林 哲 |
| 時間数 | 60 | 必修・選択 | 配当年次 |
| 曜日・時限 | | 選択3 | 教室 |
| 授業の到達目標 | 初級～中級コードワークの習得。自作曲への応用。 | | |
| 授業の内容 | ※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する | | |
| 曲作りにダイレクトに活用、応用できるポピュラー音楽理論の習得。 (Minor Diatonic Chord Progression ～ Non Diatonic Chords ～ Tension) 【実務経験】作編曲家。1998年のデビュー以降、ZARDをはじめビーイング系アーティストの編曲を数多く手がける。1999年より母校でもある大阪スクールオブミュージック専門学校にて作、編曲の講師を務め現在に至る。Steinberg 認定講師。 | | | |
| 回数 | 授業形態 | 内容 | |
| 1 | 演習 | Diatonic Chord Progression (Minor)の学習 | |
| 2 | 演習 | 楽曲コード進行分析 1/既存曲を分析し、効果的なDiatonic Chordの使い方を学ぶ | |
| 3 | 演習 | 楽曲コード進行分析 2/既存曲を分析し、効果的なDiatonic Chordの使い方を学ぶ | |
| 4 | 演習 | 裏コード、Secondary Dominant 7th Chord の学習 | |
| 5 | 演習 | Line Cliche、Major Key におけるSDmコードの学習 | |
| 6 | 演習 | Bluesy 7th、偽終止の学習 | |
| 7 | 演習 | 特殊な偽終止、循環コードの学習 | |
| 8 | 演習 | Tensionの学習 | |
| 9 | 演習 | Tension Resolveの学習 | |
| 10 | 演習 | 変則的な解決、Low Inteval Limitの学習 | |
| 11 | 演習 | Passing Diminishの学習 | |
| 12 | 演習 | 総復習 | |
| 13 | 演習 | 前期内容について、筆記試験 | |
| 14 | 演習 | ワークショップ | |
| 15 | 演習 | ワークショップ | |
| 準備学習 時間外学習 | 自曲のコードワークの見直し。 | | |
| 成績評価 | 1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%) | 2、筆記試験 100% | |
| 教材 | 教科書 | なし | |
| | 参考書 | なし | |
| 学生への メッセージ | 自曲に様々なバリエーションを加えたり、自分の生み出したメロディーを更に輝かせる為に必要な知識になります。 真剣に取り組んで下さい。 | | |

キャリアプログラム科 シラバス

| | | | |
|---|---|--------------------|-------|
| 科目名 | 楽器レッスン(楽器ファンダメンタル) | 担当教員名 | 元岡 衛 |
| 単位数 | 60 | 必修・選択 | 配当年次 |
| 曜日・時限 | | 教室 | EN332 |
| 授業の到達目標 | 予習、復習の習慣化。アドリブソロの組み立て。リズムの違いを理解する。様々なジャンルに対応出来る奏法を習得する。 | | |
| 授業の内容 | ※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、自身のメソッドを用いて進めて行く。 | | |
| 【実務経験】4歳からクラシックピアノを習い始める。1989年に大阪スクールオブミュージック専門学校インストラクター科を卒業後、ピアノ講師を始める。2002年から現在に至るまでキーボード講師を続けながら関西を中心にライブ活動を行う。 | | | |
| 回数 | 授業形態 | 内容 | |
| 1 | 演習 | Chordの理解力等レベルチェック | |
| 2 | 演習 | 8beat Ballad奏法 | |
| 3 | 演習 | 12/8beat Ballad奏法 | |
| 4 | 演習 | Diatonic Chordの説明 | |
| 5 | 演習 | II m7-V7-I Δ7の説明 | |
| 6 | 演習 | II m7-V7-I Δ7のメソッド | |
| 7 | 演習 | II m7-V7-I Δ7 | |
| 8 | 演習 | Blues 8beat 奏法 | |
| 9 | 演習 | Blues 8beat 奏法 | |
| 10 | 演習 | Blues Shuffle 奏法 | |
| 11 | 演習 | Blues Shuffle 奏法 | |
| 12 | 演習 | Bossanova Snmba 奏法 | |
| 13 | 演習 | Bossanova Snmba 奏法 | |
| 14 | 演習 | (ワークショップ) | |
| 15 | 演習 | (ワークショップ) | |
| 準備学習 時間外学習 | 復習として授業で習った内容を翌週も弾けるようにしておく。 | | |
| 成績評価 | 1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%) | 実技試験100% | |
| 教材 | 教科書 | 特になし | |
| | 参考書 | 特になし | |
| 学生への メッセージ | 様々なスタイルの奏法を身に付け、Solo Pianoで表現出来る技術を身に付けましょう。 | | |

キャリアプログラム科 シラバス

| | | | | |
|---------------|---|--|-------|--------|
| 科目名 | 映像制作(PV制作) | | 担当教員名 | 林 耐治 |
| 時間数 | 60 | 必修・選択 | 配当年次 | 1年次 後期 |
| 曜日・時限 | | 選択3 | 教室 | A503 |
| 授業の到達目標 | <p>映像を制作していく上で、最低限必要とされる知識の習得。</p> <p>撮影、編集、CGの基礎的な技術の習得。</p> <p>映像作品を形成する、シーン構成、構図、色、カットニング、カメラワーク、被写体への演出などの意味を理解。</p> | | | |
| 授業の内容 | <p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する</p> <p>ドラマ、CM、イベントやコンサート動画、ドキュメンタリー、ライブ中継と豊富な経験をもとに映像制作のノウハウを多岐にわたって指導していきます。基本的には1コマ目を講義。2コマ目を演習の時間としていきます。講義では映像制作に必要な知識や考え、演出方法などを教えます。演習は2種類。1つ目は、デフォルトとして毎回、課題を与え、ipadを利用して全員に30秒～1分程度の映像作品を制作してもらいます。もう一つは、スペシャルとして前期、後期各期に1作品、外部のスタジオなどを利用してPVを制作します。これは、学生全員で監督、プロデューサー、カメラ、編集などの役割を決め、1つの音楽作品を作る大掛かりな取り組みです。</p> <p>※実務経験:ドラマ、CM、イベントやコンサート動画、ドキュメンタリー、ライブ中継等に携わる。</p> | | | |
| 回数 | 授業形態 | 内容 | | |
| 1 | 演習 | 映像についての概要とimovieの使い方を指導。課題音楽をベースに簡単なPVを制作。 | | |
| 2 | 演習 | 編集についての基礎(カットニングとモンタージュ) | | |
| 3 | 演習 | 撮影についての基礎1(構図) | | |
| 4 | 演習 | 撮影についての基礎2(カメラワーク) | | |
| 5 | 演習 | 絵コンテを描いて撮る①(対話シーン、単純な人物の動き) | | |
| 6 | 演習 | 絵コンテを描いて撮る②(複雑な人物の動き) | | |
| 7 | 演習 | 撮った映像を編集する。ADOBE PremiereとAfter Effects① | | |
| 8 | 演習 | 撮った映像を編集する。ADOBE PremiereとAfter Effects② | | |
| 9 | 演習 | 撮った映像を編集する。ADOBE PremiereとAfter Effects③ | | |
| 10 | 演習 | 撮った映像を編集する。ADOBE PremiereとAfter Effects④ | | |
| 11 | 演習 | 撮った映像を編集する。ADOBE PremiereとAfter Effects⑤ | | |
| 12 | 演習 | 簡単なミュージックビデオ制作 | | |
| 13 | 演習 | 簡単なミュージックビデオ制作 | | |
| 14 | 演習 | 簡単なミュージックビデオ制作 | | |
| 15 | 演習 | 簡単なミュージックビデオ制作 | | |
| 準備学習 時間外学習 | 撮影するPVの素材の確認と必要機材の準備と機能についてを調べる | | | |
| 成績評価 | 1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%) | 1.授業に対する取り組み姿勢 50% 2.授業内で制作する作品および提出課題の出来 50% | | |
| 教材 | 教科書 | 講師より適時、プリントを配布 | | |
| | 参考書 | 月刊誌 ビデオサロン (玄光社より毎月 発行) | | |
| 学生への メッセージ | 授業名は「ミュージックビデオ制作」ですが、MVには総合的な能力が求められます。よって、1年次前期の授業では、まず基本的な映像制作のノウハウを教えます。1年次の後期および2年次に本格的なMV制作に取り組んでいきます。教わる、学ぶ、自分でやってみる、人から批評される。ひたすら、この繰り返しです。映像業界への就職のためには授業以外の時間でも、自主制作に取り組むことが不可欠です。 | | | |

キャリアプログラム科 シラバス

| | | | | |
|---------------|---|---------------------------------------|-------|------------------|
| 科目名 | 放送(FM番組制作) | | 担当教員名 | 藤田祐司 |
| 時間数 | 60 | 必修・選択 | 配当年次 | 1年次 前期 |
| 曜日・時限 | | 必修 | 教室 | メディアセンター・ワン・スタジオ |
| 授業の到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・企画書作成の基礎知識と作成能力の育成。プレゼンテーションテクニックの習得 ・Web配信番組制作を通して、TV番組の組み立て方と基礎知識を習得 ・カメラワーク、編集テクニックなど機材の基本操作術と、編集ソフト等の基礎的な使用方法の習得 ・チームでの制作実習を通して、各役割の仕事内容とチームプレイの重要性を習得 | | | |
| 授業の内容 | <p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する</p> <p>ニッポン放送からスカパー局長を経て、番組・音楽制作の現場30年以上の実践の中で体感してきたこの業界は、近年、大きな変革期を向かえています。特に今後増々需要が高まるWeb配信はこの業界の大きなアイテムです。この授業では実際に番組制作現場で使われている映像中継システムを使い、学生たちの企画する番組を全世界に向けて配信します。発想をどのように企画し具現化していくか、そしてそれらを技術力でどう表現するか…。多くの人々に感動を届けるTVマンの世界を理論と感性で実践し、チームでのコミュニケーション能力を身に付けながら、これからの番組制作現場で必要とされる人材の育成を目指します。</p> | | | |
| 回数 | 授業形態 | 内容 | | |
| 1 | 演習 | 1年間の授業内容と目標 / 自己紹介 / TV番組制作の世界(各役割紹介) | | |
| 2 | 演習 | 発想を具現化し、実現するためのツール【企画書の作成基礎】 | | |
| 3 | 演習 | 実際の生放送の番組制作現場を見学【役割とチームプレイ】 | | |
| 4 | 演習 | 機材に触れよう1(放送カメラを使って撮影の基礎を学ぶ) | | |
| 5 | 演習 | 機材に触れよう2(編集機材を使って編集の基礎を学ぶ) | | |
| 6 | 演習 | ショートムービーの制作に挑戦!(チーム分けと「企画書」の作成) | | |
| 7 | 演習 | ↓ (企画書に基づいた「撮影」) | | |
| 8 | 演習 | ↓ (「編集」によって作品の骨格を完成) | | |
| 9 | 演習 | ↓ (作品チェックと修正編集で作品完成) | | |
| 10 | 演習 | ↓ (完成作品の「試写」により、問題点の整理と心構えの育成) | | |
| 11 | 演習 | 番組制作の役割と適合性を知る(ディレクター、カメラマン、編集マンの役割) | | |
| 12 | 演習 | 放送局の現場をユニークに描いたドラマの試写 | | |
| 13 | 演習 | 放送局の現場をユニークに描いたドラマの試写 | | |
| 14 | 演習 | 前期まとめ(後期のWeb配信番組制作に向けて)レポート課題 | | |
| 15 | 演習 | 前期まとめ(後期のWeb配信番組制作に向けて)レポート課題 | | |
| 準備学習 時間外学習 | 日常の中で「サプライズ」と「感動」の仕掛けを想像し、番組制作において最重要である「演出」のテクニックを考察すること。 | | | |
| 成績評価 | 1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%) | 1) 実技・チームワークの態度 50% 2) 制作課題 50% | | |
| 教材 | 教科書 | 実際にTV番組で使用した企画書・台本 | | |
| | 参考書 | 実際に放送されたTV番組 | | |
| 学生への メッセージ | TV番組の制作は「アイデアを生むチカラ」と「発想を具現化しカタチにする経験」が重要です。この授業で、「実践し体験し実感」しましょう。番組制作の裏話や視聴率を取るための秘話は必見! 番組制作のすべてを経験してきた現役プロデューサーだからできる実践型の授業です。さあ皆さん、共に考え、共に創りましょう。皆さんの未来のために!! | | | |

キャリアプログラム科 シラバス

| | | | |
|--|--|-------------------|------|
| 科目名 | ステージパフォーマンス(スタートアンサンブル) | 担当教員名 | FIRE |
| 単位数 | 60 | 必修・選択 | 配当年次 |
| 曜日・時限 | | 選択3 | 教室 |
| 授業の到達目標 | 単に曲を弾くだけでなく、合奏としての意味を理解し人前で演奏する姿勢を学んで貰います。 | | |
| 授業の内容 | ※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する 現役でメジャーで活躍するミュージシャンが世界に通用するパフォーマンスを指導します。主に海外のバンドの曲を元にパフォーマンスして貰い、単に演奏だけでなくステージに上がる責任、重みを感じて貰います。またエンターテイメントとしての音楽も実践して学んで貰います。曲のコピーだけでなくグルーヴの大切さ、ベースの役割を学びます。 | | |
| 【実務経験】大阪スクールオブミュージック専門学校、アメリカのMusicians Instituteを卒業。その後東京にてメジャーデビュー。スタジオミュージシャンとしても20年以上メジャーアーティストと共に多くのHIT作品を手がける。ライブパフォーマンスも5大ドームや世界ツアーも数多く経験する。音楽指導も積極的に行っており既に多くのプロミュージシャンを育てている。 | | | |
| 日程 | 授業形態 | 内容 | |
| 1週目 | 演習 | 課題曲の解説と実技 | |
| 2週目 | 演習 | 課題曲の解説と実技 | |
| 3週目 | 演習 | 講師によるデモ演奏と学生による実践 | |
| 4週目 | 演習 | 課題曲の解説と実技 | |
| 5週目 | 演習 | 課題曲の解説と実技 | |
| 6週目 | 演習 | 講師によるデモ演奏と学生による実践 | |
| 7週目 | 演習 | 課題曲の解説と実技 | |
| 8週目 | 演習 | 課題曲の解説と実技 | |
| 9週目 | 演習 | 講師によるデモ演奏と学生による実践 | |
| 10週目 | 演習 | 課題曲の解説と実技 | |
| 11週目 | 演習 | 課題曲の解説と実技 | |
| 12週目 | 演習 | 講師によるデモ演奏と学生による実践 | |
| 13週目 | 演習 | まとめ | |
| 14週目 | 演習 | (ワークショップ) | |
| 15週目 | 演習 | (ワークショップ) | |
| 準備学習 時間外学習 | 課題曲のコピー。演奏だけでなく歌詞の内容、バンドの歴史、ライブパフォーマンス等も調べておく | | |
| 成績評価 | 1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%) | 1)実技試験 100% | |
| 教材 | 教科書 | | |
| | 参考書 | | |
| 学生への メッセージ | 人前で演奏するとは何かを学んで感じて欲しいです。 | | |

キャリアプログラム科 シラバス

| | | | | |
|---------------|---|----------|--------------------------|-------|
| 科目名 | 進級制作 | | 担当教員名 | 水島 秀樹 |
| 時間数 | 120 | 必修・選択 | 配当年次 | 1年次 |
| 曜日・時限 | | 必修 | 教室 | LS1 |
| 授業の到達目標 | コンサート、ライブ、イベント全般通じてアーティスト、ゲストが楽しめる空間の構築。ノークレームを目指す | | | |
| 授業の内容 | イベントコンセプトの共有等ミーティングから、制作についての実務を行い、当日までのスケジュールを作成する。コンセプト、テーマを理解し、クライアントの要望に応えられる内容を制作し、他学科の学生と共有していく。 | | | |
| | 【実務経験】1990年大阪スクールオブミュージック専門学校卒業。その後東宝芸能と契約、各テーマパーク等でダンサーとして活動、バンドとしても活動を行い1998年CDデビュー。2001年より東京スクールオブミュージックにてヴォーカルコース、企画コースを担当。 | | | |
| | 日程 | 授業形態 | 内容 | |
| 1 | 1回 | 演習 | コンセプトミーティング | |
| 2 | 2回 | 演習 | 各演目リーダー顔合わせ | |
| 3 | 3回 | 演習 | 第1回テクニカル、運営ミーティング | |
| 4 | 4回 | 演習 | リハーサル見学&各演目とのコンセプトミーティング | |
| 5 | 5回 | 演習 | テクニカルリハーサル | |
| 6 | 6回 | 演習 | 第2回テクニカル、運営ミーティング | |
| 7 | 7回 | 演習 | クオリティチェックサポート | |
| 8 | 8回 | 演習 | 演出ミーティング | |
| 9 | 9回 | 演習 | 演出ミーティング & テクニカルミーティング | |
| 10 | 10回 | 演習 | 全体リハーサル | |
| 11 | 11回 | 演習 | 最終テクニカル、運営ミーティング | |
| 12 | 12回 | 演習 | 全体リハーサル | |
| 13 | 13回 | 演習 | 現場全体リハーサル | |
| 14 | 14回 | 演習 | 本番 | |
| 15 | 15回 | 演習 | 振り返り | |
| 準備学習 時間外学習 | 多くのアーティストのライブ映像をみておく | | | |
| 成績評価 | 1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%) | 実技課題100% | | |
| 教材 | 教科書 | | | |
| | 参考書 | | | |
| 学生への メッセージ | 1年間頑張った成果をたくさんの方に見てもらい、出演者からたくさんの「ありがとう」をもらいましょう！そして来年、更なるレベルアップをしていきましょう！ | | | |